

1. 業務名

石狩湾新港危険物等取扱貨物輸送調査業務

2. 業務目的

本業務は、北海道内で整備が進められている次世代半導体関連産業の集積に伴い、需要が見込まれる危険物を含む貨物の本港での取扱可能性を調査するとともに、本港背後圏に存在する貨物需要を把握し、内貿・外貿貨物取扱量の拡大に向けた具体的方策を整理することを目的とする。

3. 業務委託

契約締結日の翌日 ~ 令和9年3月12日

4. 業務内容

(1) 計画準備 1式

本業務の目的及び内容を把握し、業務の手順及び遂行に必要な事項を企画立案する。

(2) 危険物貨物の取扱可能性調査 1項目

半導体関連産業等において需要が想定される危険物について、貿易統計などを活用の上、北海道内港湾における取扱状況を整理するとともに本港における取扱可能性、課題及び必要性等を整理すること。

(3) 背後圏及び貨物動向の現況調査 2項目

各種統計資料（全国輸出入コンテナ貨物流動調査、全国貨物純流動調査等）を活用し、現状の本港の利用実態、他の輸送手段を整理の上、本港の利用が見込まれる背後圏を設定すること。

また、設定した背後圏について、発着貨物の流動実態を品目別・国別地域別・輸送手段別に整理すること。

(4) 本港利用可能性分析 1項目

(3)の結果を踏まえ、本港で取り扱う可能性のある貨物を抽出し、次の観点から分析すること。

- ・本港へ転換した場合の優位性（距離、輸送時間、コスト等）
- ・内貿貨物としての利用可能性
- ・外貿貨物としての利用可能性

(5) 営業ターゲットの抽出及びヒアリング調査 2項目

本港を利用する可能性が高いと考えられる荷主・物流事業者・商社・団体等を抽出し、営業活動に活用できるリストとして整理すること。

整理項目例

- ・企業名
- ・所在地
- ・主な取扱品目
- ・想定利用航路（外貿・国際フィーダー）
- ・想定コンテナ種別
- ・利用見込み度

概ね50者程度を目安とする。

また、抽出した事業者のうち、本港利用可能性が高い事業者に対し、必要に応じてヒアリング調査を実施すること（10者程度）。

調査項目例

- ・現在の物流ルート
- ・利用港湾選定理由
- ・現在の課題
- ・本港の利用条件
- ・今後の利用可能性

(6) 成果のとりまとめ 1式

本業務の目的、検討内容、検討結果について報告書を作成する。

(7) 協議・報告 1式

事前協議1回、中間3回、最終報告（成果品納入時）1回の計5回とする。

(8) 照査 1式

業務内容についての一切の照査を行う。

5. 成果物

- (1) 業務報告書（A4版） 2部
- (2) 報告書原稿 1式（電子データで提出：正副）
- (3) 電子データ一式（Word、Excel、PDF等）

6. その他

- (1) 当該業務は「北海道建設部測量調査設計業務等共通仕様書」を遵守するものとする。
- (2) 本仕様書に定めのない事項は、委託者と受託者が協議のうえ定める。
- (3) 本業務で得られた成果や情報は本業務遂行以外の目的に使用することを禁ずる。
- (4) 当該業務は「港湾請負工事積算基準（令和8年度）」に基づき作成している。
- (5) 本業務に必要な資料収集、関係機関調整等は受託者が行うこと。